



社員に違法な長時間労働をさせた労働基準法違反の疑いで、広告会社の世界的な大手である「電通」と自殺した新入社員の上司が、昨年12月28日東京地検に書類送検された。これを受けて電通社長は1月に引責辞任を表明。事件は政府が目玉政策に掲げている「働き方改革」と絡み、事件処理は異例の迅速対応となった。今後の行方には、長時間労働の是正への政府の強い姿勢と意向が反映されると推測される。

## ワークライフバランス

### —「働き方改革」実践のとき—

情報広報部長

山科 賢児

る。政府は過労死問題を無視できなくなり、2012年国家戦略会議において「日本再生戦略」が策定され、過労死の一因の長時間労働の是正対策にワークライフバランスを取り入れた。さらにアベノミクス第2弾として「新・三本の矢」を掲げ、非正規雇用の待遇改善と長時間労働の是正と高齢者の就労促進を、働き方改革の「最大のチャレンジ」と位置づけ、「ニッポン一億総活躍プラン」の実現を目指している。

医療現場から社会を見ると、非正規雇用者の経済的窮乏と将来への不安や、正規雇用者の人出不足による長時間労働と深夜勤務は改

善する気配はない。ストレスが引き金と考えられる肉体的、精神的疾患にも度々遭遇する社会に活気や躍動感はなく、人々は現状維持できればと、諦めている。最近の高齢者は気力と体力も十分就労可能であるが、高齢者になっても働かなければならないこと自体が問題にされるべきである。

ワークライフバランスは「仕事と生活の調和」と訳され、「やりがいや充実を感じ、働きや仕事上の責任を果たし、家庭や地域生活において多様な生き方が選択と実現できる」と政府は謳い、ワークライフバランスの推進を長時間労働の是正と労働生産性の向上につなげる成長戦略の一環として打ち出した。仕事へのモチベーションが上がり気持ちにゆとりができれば、安定した経済成長や少子化に歯止めがかかるかもしれない。しかし、仕事を効率化し短時間で仕事上の責任を果たし、GDPや会社の業績

が上がる社会を目的とする成長戦略やアベノミクスの実現とワークライフバランスは別の次元の話であろう。

今の医療制度では、医師は診療科目の変更や勤務医や開業医など多様な勤務形態の選択の自由があり、オンとオフの時間を有効に使う生活スタイルは、他の職種に比べ容易である。日医総研ワーキングペーパー「若手医師の診療科選択プロセスに関する調査」坂口氏らの報告によると、将来の診療科を考えるときに重視するのは、「休日や余暇など自分の時間がとりやすいこと」「結婚や子育てとの両立がしやすいこと」「診療科や医局の雰囲気

や人間関係が良いこと」であった。仕事現場の快適さとワークライフバランス実現の容易さが将来の専門医の選択の基準になっている。また「休暇取得制度や職場に休暇を取得できる雰囲気がない」と回答した医師が半数を超えた。5時過ぎまで残って仕事をしているとボスや同僚から不思議がられたり、土日に仕事に行こうものなら守衛から呆れた顔をされたりすることは海外ではよくある。オンとオフの切り替えや休む時はしっかり休み、ここの一番の集中力と仕事の効率化を日本の外ではできるのに、なぜか日本では「帰れない、休めない」に戻ってしまう。

ワークライフバランスという生き方は、日本が丸となって前進していた時代には認められず、日本が陰り始めてようやく日の目を見ることになった。だが単に残業をせず休暇を取ることを意味するのではない。たとえ長時間働いたとしても人生が充実し楽しければ、その人にとってバランスはとれていることになり、どう生きているかが大切でなからうか。ワークライフバランスは個人が自ら気づき実践するものであり、実現のためには社会と個人の緩やかな自覚と自律の確立が前提条件となる。

ひたすら成長を求める資本主義により世界はグローバル化し、社会は二極化や格差や差別で分断され、人々の価値観は衝突し、全てが行き詰っている。日本は経済成長神話から抜け出し、成長の鈍化や少子高齢化の現実をそろそろ受け入れてはどうだろうか。人間に老いがあるように、国にも栄枯盛衰あり歴史には抗えない。考えようによっては今の日本は抗えていない。身の丈に合った生き方を選ぶべきである。ほどほどの活躍と成熟への道を選択する時が来たのである。